（様式１）

観光社会資本の事例

テーマ	見て感動、これぞ北海道の牧場風景！　上士幌町ナイタイ高原牧場

【施設の状況写真】

総面積約 1,700ha（東京ドーム 358 個分）の牧場で、牛の放牧を見ることができます。ときどき野生の鹿も現れる、自然いっぱいの高原牧場です。

【施設の利用写真】

雄大な牛の放牧風景

ナイタイ高原牧場レストハウス

身近に牛と接する観光客

牛たちが草を喰む姿と雄大な十勝平野の景観を満喫するため、年間約１５０，０００人の観光客が訪れます。

【観光資源としての利用状況】

帯広市街から北へ約５０km、標高３６５m から1,０００m の高原に広がる牧場は、約1,７００ヘクタールの広さに2,７００頭ほどの乳牛が放牧されています。

牧場のいちばん高い場所にある展望台からは、雌阿寒岳、雄阿寒岳などの山々と雄大な十勝平野を一望することができます。

また、牧場内の道路を車で走っていると、放牧されている牛たちが寄ってくることもあります。身近に牛たちと接することができる、まさに牧歌的な風景が満喫できる北海道らしい観光スポットの一つとなっています。

もうひとつの楽しみはレストハウスで搾りたてのミルクを味わったり、地元特産品を購入したりすることができることです。一番のおすすめは、濃厚なミルクたっぷりのソフトクリームで、「十勝に来たら必ず食べる」という人も少なくありません。

（様式2）

テーマ	見て感動、これぞ北海道の牧場風景！　上士幌町ナイタイ高原牧場

【社会資本の基礎データ】
○名　　称　　ナイタイ高原牧場
○所 在 地　　北海道 上士幌町 上音更８５－２
○事 業 名　　国営草地開発事業
○事業主体　　北海道開発局
○事業期間　　昭和４１年度～昭和４７年度

【社会資本の役割･効果】

上士幌町の基幹産業は酪農と畑作であり、農家戸数は約２００戸、一戸あたりの農地面積は平均４３haと大きな規模の経営が営なまれています。

本地域の土地利用型農業（農地に米、大豆、飼料作物などを作付け、栽培管理し収穫する農業）の象徴ともいえるのが「上士幌町ナイタイ高原牧場」です。

戦前は種馬育成牧場として利用されていましたが、酪農の振興のため、昭和４１年から国営草地開発事業として整備が進められ、昭和４７年の事業完了により町営牧場となり、現在では全国から乳牛、肉牛等を預託され、育成にあたっています。

本牧場の放牧期間は 5 月から 10 月で、この時期には 2,700 頭を越える牛が草地に放牧されています。また、冬の畜飼期間（11 月～4 月）は、一日平均 2,300 頭前後の牛が牧場基地の畜舎で飼われています。

【位置図】

【関連ホームページ】
上士幌町役場　http://www.kamishihoro/kankou/naitai.html